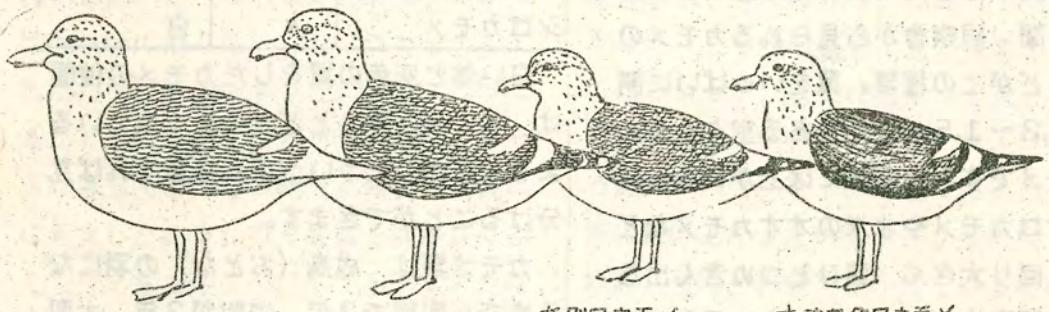
すずがも通信　36

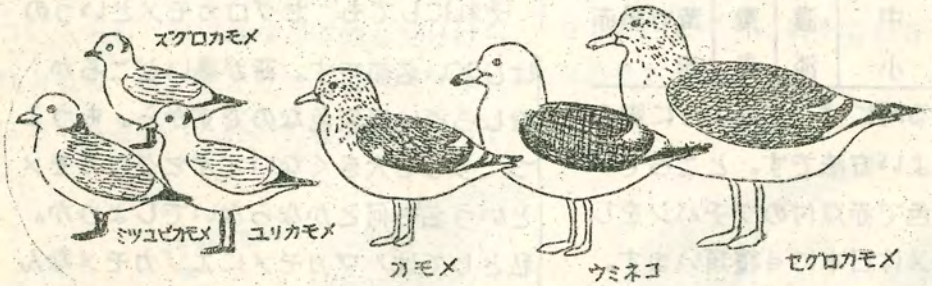
行徳野鳥観察舎友の会々報

1986. 2

特集　セグロカモメ



シロカモメ　ワシカモメ　セグロカモメ　オオセグロカモメ



[redacted]

特集

セグロカモメ

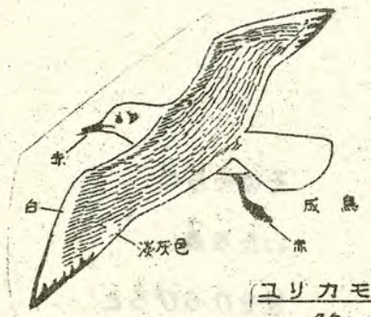
蓮尾純子

岸壁にずらりと並んだカモメは冬の海岸に欠かせないながめです。陽光を浴びてのんびりとくつろいでいる時も　寒風にさからって飛ぶ時も　いつ見てもおおらかな美しさとたくましさを感じます。

冬の間　観察舎から見られるカモメのほとんどがこの種類。翼をいっぱいに開くと1.3～1.5m近くもある堂々たる大型カモメです。でも上には上がいるもので　シロカモメや北米のオオカモメなどはひと回り大きく　頭ひとつぬきん出るほど。観察舎からごくふつうに見られる3種のカモメの特徴をくらべると

	大きさ	色	脚	クチバシ
セグロカモメ	大	中	桃	黄で赤点
ウミネコ	中	濃	黄	黄で黒赤
ユリカモメ	小	淡	赤	赤

近距離で見る時には　このように脚の色を見るのもよい方法です。ところで桃色の脚　黄色で赤点付のクチバシをした大きなカモメは日本に4種類います。



ユリカモメ
冬鳥として渡来。
小型の愛らしいカモメ。
旧称ミヤコドリ

その見分け方を表にして見ましょう。

	上面の色	翼の先
オオセグロカモメ	濃青灰色	黒に白点
セグロカモメ	青灰色	〃　〃
ワシカモメ	淡青灰色	灰色に白点
シロカモメ	〃	白

白い体と灰色の翼をしたカモメの仲間は　ちょっと見るとどれもよく似ているようですが　こういう点に注意すれば見分けることができます。

カモメ類は　成鳥（おとな）の羽になるまで小型種で2年　中型が3年　大型種は3～4年かかります。若いセグロカモメは全身褐色の斑が入っていて　スマートな成鳥とは別の種類のようです。

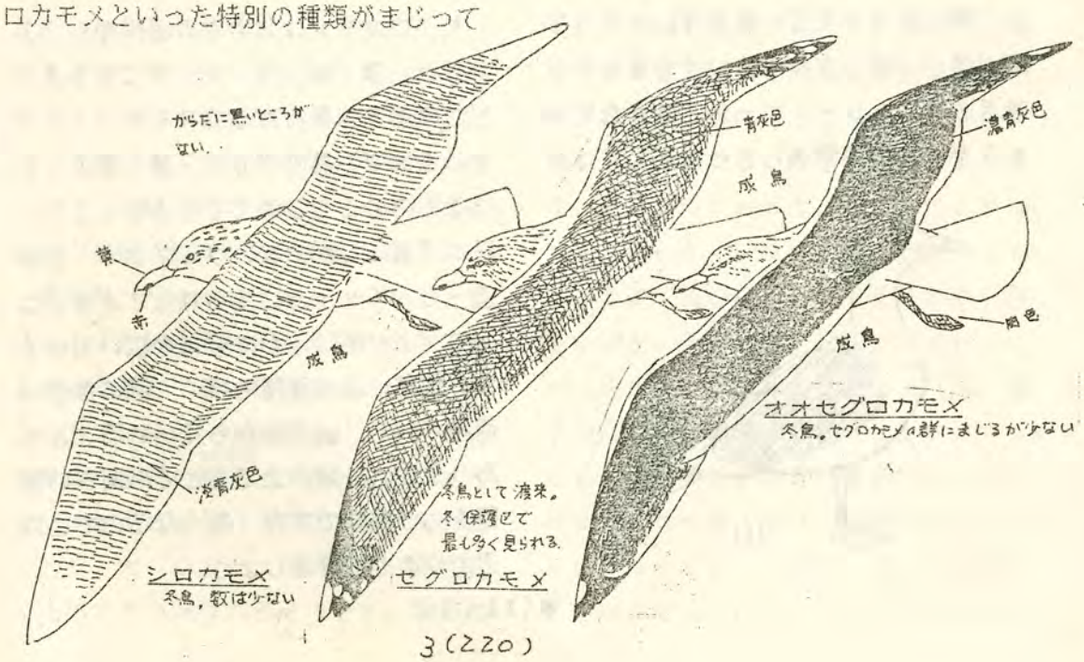
それにしても　セグロカモメというのはひどい名前です。背が黒いどころかむしろ淡い青灰色なのですから。もう1つ　少しも大きくないオオセグロカモメという名も何とかならないでしょうか。私としてはハマカモメにエゾカモメなんていうのがよさそうだと思うのですが。

さて　セグロカモメは日本では冬鳥。東京湾では10月中　下旬～4月中　下旬まで見られます。潮のひいた干潟で貝やカニを漁ったり　海岸に捨てられた生ゴミに群らがったり　漁船に集まったりします。ごちそうを見つけて1羽が舞いおりると　とたんに遠くのカモメが集まってくる様子は　トビやハゲタカのような海の掃除屋さんの役割を思わせます。

そういえば餌場に降りたセキセイインコをぱっくり飲みこんでしまったセグロカモメがいましたっけ。

観察舎では'76年秋からカモメの餌づけを始めています。最初のお客はウミネコで　青森県の蕪島をはじめ　各地で天然記念物になったりして大切にされているためか　ごくあっさりと餌付いてくれました。ところが11月中にウミネコはきれいに姿を消し　セグロカモメと入れかわってしまいました。一時はどうなるかと気をもんだのですが　セグロカモメはきちんと跡をついで　毎日餌を食べにきました。それでも警戒心はかなり強く　ウミネコのようにくつろぐまでにはずいぶん長いことかかりました。

観察舎から見るセグロカモメはふつう80～200羽位。たぶん同じメンバーの常連さんだと思います。標識リングのついたもの　足の傷などで他と見分けられるもの　またはオオセグロカモメやシロカモメといった特別の種類がまじっている様子などを見ても　ほとんどが毎日通ってきている顔ぶれと考えてよさそうです。このカモメたちは朝早いうちに海から帰ってきて　夕方になると出て行きます。ふんや食べかすには貝がらやカニのハサミなどがまじっているので　干潮時には干潟で餌をとっているようです。昼前の給餌時間になると　たいていは堤防の上かすぐそばのUFO島の干潟に集まって　こちらの様子を見ています。中にはちゃっかり屋上にとまって見下ろしている図々しいのもいます。魚アラの入ったポリバケツを下げて道に出ると　一斉に舞い上がったカモメ達が金切声で大歓迎。うんとお腹をすかせている時は　私が餌場に背を向けたとたんに　ワッと群らがり　10kgのアラが5分ともたずに呑み込まれてしまいます。大きなカモメが目の前でぐるぐる飛びまわり舞い降りてはわれがちに餌を呑む様子はなかなかの見ものです。



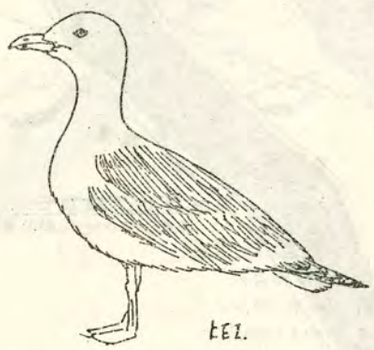
シロカモメ
冬鳥，数は少ない

セグロカモメ
冬鳥として渡来。
冬，保護区で
最も多く見られる。

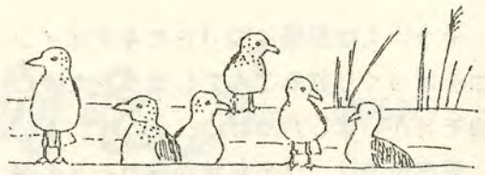
オオセグロカモメ
冬鳥。セグロカモメの群にまじるが少ない

動物行動学の教科書とも言うべきティンバーゲンの「セグロカモメの世界」；思策社；には　繁殖期の生活と　面白い研究や実験が描かれています。色々な形や大きさ　色をした卵の模型を使った実験や　ヒナが親のクチバシにある赤い斑点をめがけてつつくことから考えられた巧妙な実験の意外な結果……興味のある方はぜひ御一読ください。

それはさておき　私たちはティンバーゲンが書けなかった“越冬地での生活”を見ることができます。特に１～３月には　つがい形成－求愛の様子がよく見られます。いつかたっぷり時間をかけて１羽１羽のカモメの行動につき合うことができたらどんなに面白いだろう　とずっと思っているのですが……。求愛の第一段（人間の目で見てすくわかるものという意味です。もしかしたら　熱烈なまなざしとか　はじらいの顔つきとかいうものがあって　ただ目につかないだけかもしれませんね）は　ンアー　ンアーという鼻にかかった甘い声です。ふつう２羽が並び　同じ方向を向いて歩きながら鳴きます。ミュー　コールと呼ばれていますが　２羽の緊張しきった顔つきは頭



KEI.



KEI.

の羽毛をぴったり寝かせているのですぐわかります。首をのばし　クチバシを下に向けた様子も他のカモメと全く違っています。ミュー　コールとよく似た姿勢のまま　フォフォフォフォとリズミカルに首を上下させて鳴く“チョーキング”またいったん下を向いてから首を斜め前にいっぱいにのばして鳴く“高鳴き”などを熱いカップルはくりかえし長々と続けますが　どちらかがあまり熱心でない時は　途中でやめてしまうか　けんかになることもあります。１～２時間じっくりと１羽かカップルのカモメを見つめていると　そのカモメが他のカモメと見わけられるようになりますよ。顔なじみの友達がふえたように楽しいものです。

セグロカモメは北半球の海岸なら　アメリカ　ヨーロッパ　アジアに至るまでどこの国でも見られるコスモポリタンです。世界中の鳥の中でも　最も繁栄しているものの１つと考えてもよさそうで日本近海にしかいないウミネコや　北海道～カムチャッカに限られたオオセグロカモメよりもはるかに分布が広いものです。地域による亜種も多く　脚の黄色い亜種がいて　観察舎から見られることもあります。分類の上でもとても面白い問題をもつ種類ですが　長くなるのでこの辺でやめておきましょう。

野鳥紳士録

荒井八太

○セグロカモメ－沢山の鴨と銀色に輝（かがや）く葦（アシ）。そんな冬の保護区で一番のスターは皆さん　何だと思いますか。もちろんそれは　何といってもスズカモでしょう。

しかし　観察舎へやって来て　初めて鳥を見る方達にとっては　観察舎正面の堤防にたたずむ「セグロカモメ」が一番なのではないでしょうか。蓮尾さんの切った魚のアラが餌場に置かれると　たちまち彼等は押し寄せて来ます。その様子は　まるで白い花びらが風に舞っているようです。今回はそんな隠れた？人気者「セグロカモメ」について。

漢字では「背黒鴎（カモメ）」。セグロとはいっても　背はどちらかというと銀灰色といったところでしょうか。むしろウミネコ等の方が背は黒っぽいです。「カモメ」という語は古くは万葉集の中に「加萬目（カマメ）」として記されています。また　「鴨妻（カモメ）」と書かれた事もあったようです。

「スズメ」や「ツバメ」等に見られる様に「メ」という語には「小さいもの」というニュアンスがあります。つまりカモメというのは「鴨のようで　小さいもの」という意味ではないかと思われます。

英名は「Ｈｅｒｒｉｎｇ　Ｇｕｌｌ」。Ｇｕｌｌという語は　鳴き声からきているという説と　古い仏語のｇｏｕｌ（喉（ノド））からきているという説があります。後者の方は　彼等の悪食（アクショク）ぶりからきています。ｈｅｒｒｉｎｇというのは「にしん」のことで　セグロカモメが時折にしんを食べるのでこう呼ばれるそうです。学名は「Ｌａｒｕｓ　ａｒｇｅｎｔａｔｕｓ」属名のＬａｒｕｓはラテン語で「カモメ」という意味です。種小名のａｒｇｅｎｔａｔｕｓはラテン語で「銀色の」という意味です。数年前　餌場に集まるセグロカモメにカラーリングをつけました。今でも　その時のセグロカモメを見かけることがあります。堤防の上にたたずむセグロカモメの足にご注意を。

KEI.

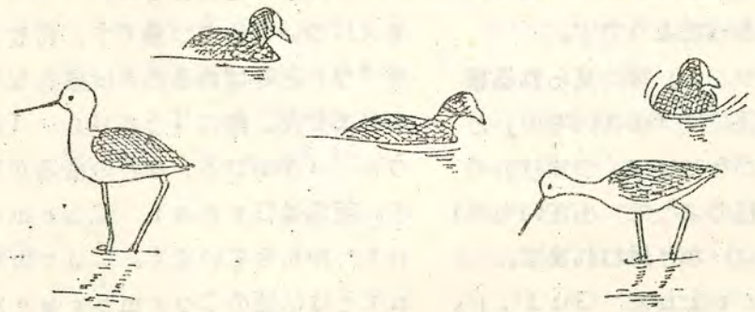
○カワウ－微かな木枯（コガラ）しにさざめく水面に浮かぶもの　下北岬で羽を乾かすもの　カワウは冬の保護区ではカモやセグロカモメについで目立つ鳥です。何故この鳥が「ウ」と呼ばれるのかは残念ながらわかりません。他に「うどり」　「からすう」　「かんつる」などの俗名があります。英名はＧｒｅａｔ　Ｃｏｒｍｏｒａｎｔ　からきています。Ｃｏｒｍｏｒａｎｔとは仏語のＣｏｒｍｏｒａｎからきています。元々はラテン語のｃｏｒｖｕｓ（からす）とｍａｒｉｎｕｓ（海に属する）です。学名は「Ｐｈａｌａｃｒｏｃｒａｘ　Ｃａｒｂｏ」属名のＰｈａｌａｃｒｏｃｒａｘはラテン語のｐｈａｌａｃｒｏｃｒａｘ（ホオアカトキ）からきているという説と　ギリシア語のｐｈ-

alcos+corax（禿頭のカラス）からきているという説があります。種小名のcarboはラテン語で「炭」のことを言います。
日中　保護区で見るカワウは　まっ黒であまりさえませんが　夕方彼等はとても見事な雁行を組んで飛び去って行きます。多分　上野の不忍池へ帰るものと思われます。観察舎へお出かけの際は少し帰りを遅くして　飛び去るカワウの群を見ながら家路へつくのもよろしいのでは。

はおと

開館十周年　　東　良一

あけましておめでとうございます。
昨年中は約三万人の来館者を迎えました。周辺でいろいろな工事をしているためか、スズガモがあまり保護区内に入らず、ちょっぴりさびしい冬になってしまいました。市川沖２期埋め立て計画の他にも、保護区と海との間にできる京葉線の駅付近に次々と高層建築物をたてる計画もあるようで、保護区が海からどんどん隔てられていくのは大変残念なことです。
さて、おかげさまで野鳥観察舎及び保護区も今年で１０年を迎えます。妙典地区も今日明日にでも埋め立てられる運命と決まり、行徳地区の湿地は著しい減少の一途をたどるばかりです。これ以上水鳥の種類と数を減らさないために、まず保護区内に早急に水鳥の生息に適した淡水湿地を作るなどの手をうたなければならないと思います。友の会では１０周年を契機に、県や市と協力して保護区の環境改良を進めるつもりですので、御理解、御協力をお願いいたします。
なお、１０周年記念特集号は、予定よりだいぶ遅れてしまいましたが、３月末には発行できる予定です。予定より大幅にページが増えたため（１６０ページ）申し訳ないのですが頒価は1200円（会員半額）とさせていただきます。是非、お買い求め下さい。ただ今、予約受け付け中です[redacted]

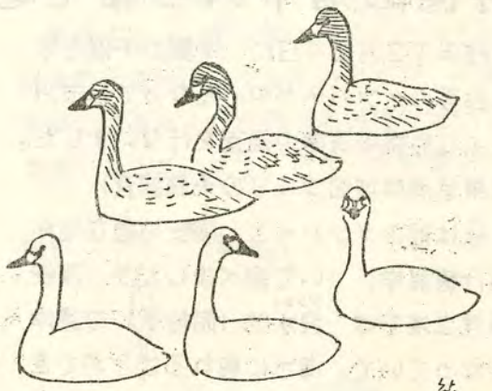


お詫び　　編集部

１２月号行事案内の集合時間が間違っておりました。
1月1日　初日の出とスズガモの帰還を見る会　　5時30分　→　5時50分
1月5日　ニューイヤーカウント　　9時　→　10時
日の出前の寒い時間に岸壁にお集まりいただいた方々、及び5日、9時におみえになりました小林さん、角くんに深くお詫び致します。以後、時間の確認には充分注意致します。

鳥の国から　－観察舎便り－　　蓮尾純子

元旦のお昼前　「初日の出の会」のあと片づけをしながらふと外を見ると　まあ　白くて大きな鳥がちょうど水面におりたところではありませんか。コハクチョウ　何と６羽も！１２月１３日の３羽（成鳥２　幼鳥１羽の親子連れ）に次いで　今冬２回目の飛来です。全身純白の成鳥３羽　灰色がかった幼鳥３羽。落ちつきなく首をまっすぐ立てたまま　鈴ヶ浦をぐるりと一周泳ぎ　いくらかくつろいだ様子でもう一周　それから羽づくろいをしながらＵＦＯ島のかげに隠れ　ふと目を離した１～２分の間に消えてしまいました。　この間約１時間。　飛び去ったのは確かだと思うのですが　何人かの人目があったのに　誰も飛んだところを見ていないのです。テレポーテーションしちゃったのかしら。
でも　今年はきっといいことがあると思うことにしました。
☆スズガモ　１１月２８日から消えてしまったきり　まだ帰りません。　間が悪かったというのでしょうか。塩浜の湾岸道路側で大きなホテルが建ったり　高いクイ打ち機が動いたりしているためかスズガモが行徳高校側にはりつくように入っていたのです。そこへ　水路しゅんせつ工事のクレーンショベル。高いところでゆらゆら動くものって　本当にきらうんですよね。クレーンが曲り目のあたりまで入ってきたのが１１月２６～２７日　そして28日からの群の消失。どうしても関連づけて考えないわけには行きません。その後　何度か１万羽前後の群が入ったのですが　砂を運ぶダンプカーのドスンドスンという音で舞い上ったりして一向に落ちつかず　やけっぱちで元旦をむかえました。
ところが　元旦は３～４万羽が７時すぎに入ってきたのです。それはそれはみごとな眺めで　初日の出が雲に隠れた恨みも帳消しになりました。
ところが　ところが……この大群が入ってきた直接の原因は　何とハンターさん。岸からほんの２～３００ｍまで舟を乗り入れてきて　銃猟禁止区域でカモを撃ち　拾って持って行っちゃったのだそうです。元旦早々何てことでしょう。
“あぶく銭身につかず”のたとえのように２日以降　スズガモは戻りませんでした。しゅんせつ　砂入れ工事は思いのほか難行し　１２月中に終る予定が　どうも２月にかかってしまいそうです。特に浦安や塩浜方面の方にはご迷惑をおかけ



しています。クレーンがだいぶ下流に移ったためか　１５日以来５千～１万のスズガモが続けて入っているのでもしかするとある程度の数が戻ってくれるかも知れません。「カモ　どうしたんですか？全然いませんねえ」……おわびするのも心苦しいのですが……とにかく　すみません。

熟した木の実を求めて　ツグミ　ヒヨドリ　オナガなどが群をつくって出勤するようになりました。1月１８日の夕方に観察舎の前を通って次から次に鴨場に帰って行くツグミ　７０+ 羽。電線のま下などにふんがいっぱい落ちているのを見ると　どこかのお宅で目のかたきにされていないかと心配になります。

餌場のバンも　今のところ休戦協定中で　１０～１４羽もがけんかもせずパンをつついています。寒中の飢餓に対するやむを得ない適応でしょう。

オオハシシギ越冬中。セイタカシギの若鳥が時々餌をとりにきます。雨などで鳥もお客様も少い時によく現われるような気がします。

ハクセキレイが２羽　観察舎の２階南すみの窓ガラスと三次主幹の車のバックミラーを相手になわばり争いを続けています。自分の姿が映るので　侵入者と思うのでしょう。足あとやふんだらけ。見ていても面白いのですが　室内に人がいるときは　さすがにやりません。

オオタカは今冬はめったに現われずノスリがずっといます。（２羽の記録もある）。1月６日　水路のやぶからトラフズクと思われるもの１羽が飛びたつのを見ました（日中。私に驚いたらしい。）ホオジロ類が割合多く　これまで目につかなかったカシラダカも本土でよく見かけます。去年多かったエナガは見られず

シジュウカラは一応いるという程度。白鳥が２回も現われたので　北国は寒いんだろうなと思います。

拓.

行徳の海「いつまでも残したい」　田久保晴孝

昨年１２月２４日に　千葉の干潟を守る会等のメンバーが中心となって　市川および船橋の海岸の調査を行ないました。（東京湾岸地図づくりの予備調査）

私は他のメンバーと　浦安の埋立地から行徳海岸について調べましたが　浦安の埋立地では　親水性（階段状）の護岸になっていて　海水に触れることができたが　行徳海岸では船だまりを除いてはすべて垂直の護岸で　一度落ちたら登れない　状態で　海水に触れることはできませんでした。またある護岸は　高さが１３０㎝程あり　子供は海を見ることさえできない状態でした。

東京湾の環境をこれ以上悪化（ゴミ捨て場と運河にされる）させない為には　地域住民　市民がもっともっと海に接し海を見　海の環境を守る運動をしていかねばならないと思います。今までの護岸は　防災と危険防止を最優先に考えているのが現状です。

行徳沖の浅場では　のり採り等の魚船や　つり船が寒さにもかかわらず多数出ていました。またスズガモが２～３万羽も餌をとったり　休息したりしていました。

海を守るのは　漁民と市民である。

優良な漁場であるこの浅場（６００㏊）も市や県によって埋立て開発されようとしています。ここには下水処理場　公園　住宅　産業廃棄物捨場　人工干潟を作ろうとしています。優良な漁場であり　カレイ等の産卵場であり潮干狩場にもなっている　この場所を　金もうけの場にして　もうこれ以上東京湾をせばめてはならないと思います。

これ以上東京湾の環境を悪化させないためにも！！

行徳保護区にやってくるスズガモの重要な餌場であるこの場所がなくなったら　数万羽のカモはどこに行けばよいのでしょうか？　自然は人の為だけにあるのではありません。

市川二期埋立を考える講座が　1月から２月にかけて毎週行なわれます。（資料参照）

《興味のある方は　ぜひご参加下さい》

東京湾を全面禁猟区に！　田久保晴孝

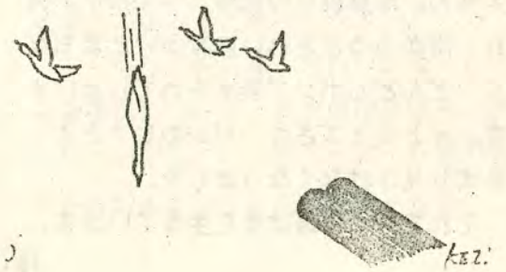
本年１月１日　市川市の行徳海岸において　初日の出とスズガモの帰還を見る会（主催　行徳野鳥観察舎友の会）が行なわれました。あいにくの曇り空で　初日はみられませんでしたが　海には数万羽のスズガモが休んでいました。午前７時すぎ　会も終ろうとしていた頃　船橋の方から赤いモーターボートがスピードをあげ　カモの群に近づいてきた。これは　もしかしたら　と思った矢先　パン　パン　という銃声とともにスズガモが黒雲のように舞い上がり　安全な野鳥保護区へと飛び去っていきました。

この海域は銃猟禁止区域で　あきらかに法をおかした行為が元日から行なわれた　ということで　法をおかして猟をするハンターと　そのハンターに船を貸す人がいることがわかりました。

無法なハンターが１人でもいると　野生の鳥やけもの　そして人間も安心していられません。

野生鳥獣が安心して餌を採ったり　休息できるようにするためには　無法ハンターをしめだすことと同時に　鳥獣保護区や銃猟禁止区域を　もっともっと広げることです（理想は　全国全面禁猟区にして　特定の猟場を設けることです）

東京湾では　東京都の海域については銃猟禁止区域になっていますが　千葉県側では港および行徳沖の海域を除いて猟場となっています。日本一の砂質干潟



が広がる木更津市の盤洲の干潟でも　今冬もたくさんの散弾銃の薬きょうが落ちていて　カモなどの野鳥が少ないようでした。（かなり密猟が行なわれている様子があります）

野鳥の為　そして東京湾で生活する漁民　ウィンドサーフィン　つりをする人々の危険防止の為にも　ぜひ一刻も早く東京湾の全域を銃猟禁止区域にしてほしいものです。

丸浜川（バード・リバー）の再生をめざして

蓮尾純子

観察舎前の水路（愛称；丸浜バードリバー）の白鳥を見ると　いつも悲しくなります。胸からおなかにまっ黒な泥をべったりつけて　白黒まだらになっていたり　黒々とした水の中でバシャバシャ水浴びをして　全身うすずみ色に汚れていたり。白鳥君はこの水路で生まれて育ったので自分ではあまり気にしていないのかも知れませんが。

この水路だって　１５年前までは　沖へ出るべか舟が次々に通っていくりっぱなみお（もちろん目の前は海）だったのです。１０年前までは　今はとりこわしてしまった水門のところで　ライトをつけてウナギの稚魚（シラスウナギ）を集めてとっていたのです。８年前までは金魚の餌にするユスリカの幼虫（赤虫）をとって商売にしている人がいたのです。マスクラットやクサガメが泳いでいるのだって　６年前には見られたのです。

今の水路はどぶ川以外のものではありません。家庭排水の流路として汚水が流れ　雨がふるときれいになるいとまもなく　どんどんポンプ排水されてしまいます。イトミミズさえ　バンのヒナさえあまり見かけなくなりました。

それでも　水路はまだ生きています。晴れた夏の朝　洗たくの汚れ水で白く濁った水が　ほんの１時間ほどできれいに澄むのを何度も見かけました。まっ黒に変色した泥が　雨水と陽光にさらされ　２４時間後には通常の泥色に戻るところも見ました。バクテリアや藻類がけんめいに汚れを除去してくれているのです。

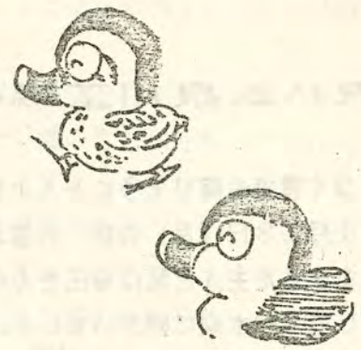
一昨年から底にたまった汚泥のしゅんせつ工事が始まり　今年は汚泥を除いたあとに山砂を入れる工事が行なわれています。効果を期待したいのですが　やはり流入する水そのものの浄化を考えないと　砂が汚れるだけに終ってしまうかもしれません。いい加減　投げやりな気持になりかかっていたところに　面白い話をうかがいました。栃木のハム工場で廃水処理に酸化池方式（酸素－空気を水に送り込んで　バクテリアや藻類の増殖をうながす汚水処理方法）を用い浄化している所があるとのことです。

１１月１６日　東京湾洋上大学に参加した席上で　偶然東大の宇井純先生にお目にかかることができました。「公害原論」であまりにも有名な方ですが　本来は汚水処理がご専門です。色々とアドバイスをいただき　すぐにパンフレットを送ってくださったのですが　これがなんと「栃木のハム工場」そのものでした。

栃木市の郊外にある滝沢ハム泉川工場は　宇井先生が企画　指導されたユニークな汚水処理システムを備えています。「宇井純の汚水処理－－滝沢ハムまでの２０年」と題されたパンフレットにはウナギ養殖に用いる水車を利用した酸化池方式で　有機物の汚れが除去されるだけでなく　現在の下水処理場ではちょっと不可能だと言われている窒素の除去もかなりできているということが書かれていました。しかも　現在の大規模な下水処理システムよりはるかに安上がりにできるというのです。

１２月１日　宇井先生はシンポジウムに参加される途中で行徳に立ち寄り　現地をひと通り見た上で水路の浄化ということなら　ウナギ養殖用の水車を１台入れて見るだけで　はっきり目に見えるような効果が上がるだろうと話されました。さあ大変　それからあっちこっちに問合わせたり　本を読んだり　１０周年記念出版の準備と一緒くたにとんてこまいの大騒ぎ（というほどでもないのですが）。１２月中は毎日曜に会合をもってとうとう１月１３日（月）に栃木市に出かけることになりました。

工場見学記は別稿に書きます。本当に簡単そうな汚水処理場でしたが　人口２万人分に相当するという濃度の高い排水を　飲んでもよさそうな状態にまで戻して川に流すという実績に感激してしまいました。水車は１基１０～２０万円位で購入できますし　電気代もおそらく月５千円前後ですむはずです。もう　やるっきゃない　という話になりました。



拓

この２～３月をめどに　水路に浄化のための水車を設置することを計画しています。１基だけでは目につく変化は出ないかもしれませんし　何よりうまく動かしておけるかどうか（ゴミなどがひっかかったらどうしよう）　それに水音などの問題も無視できません。でも　やって見なくてはわからないと思います。これがきっかけになって　水路の汚れが水路そのものの利用で浄化されるようになったら　すばらしいことだと思います。ここに限らず　手賀沼　真間川　その他汚染のはげしいあちこちの水域をきれいにし　海の汚染や青潮をくいとめることもできはしないでしょうか。

３月以降　底生動物（水の底にすむ動物　たとえば赤虫や糸ミミズ。海ならばゴカイ　カニ　貝など）の定点調査をやり　合わせてゴミ拾いも続けながら　浄化の効果を見守って行きたいと思っています。ふるってご参加ください。

……もっと先の夢。きれいになった水を保護区にひいて　淡水湿地の造成に使いたいのです。いつかきっと　行徳で蛍が見られるようになる……夢かなあ。

滝沢ハム泉川工場の見学

蓮尾純子

何となく雪でも降りそうにどんよりと曇った1月13日（月）の朝　大急ぎで給餌をすませた主人と私は寺田さんの車に便乗して　鈴木家に向かいました。事務局長の鈴木裕子さん　4才の穣君　3才の慧君と総勢6名。環七から東北自動車道を通り　お定まりの渋滞に巻き込まれたり　休憩したりしながら　栃木インターでおりたのが1時すぎ。住宅地まじりの田園風景の中を10分ほど走ると「タキザワハム」の大文字が目に入りました。年始のお客がおおぜい来られている中で縮こまっていると　施設課の小島係長が案内に見えてくださいました。

新築の広々とした建物の中の応接室で小1時間のレクチャー。工場から出る排水はBOD（生物学的酸素要求量：水が汚れ　有機物の量がふえればふえるほど分解のための酸素を必要とするのでこの値が高くなります。汚れの程度を知るめやすとしてこの数値がよく使われています）800ppmという家庭排水よりもはるかに濃度の高い汚水です。まずスクリーンで皮や脂肪といった大きなゴミをとり　73年に作られた古い処理施設でかくはんし（活性汚泥法）　BODが50～100ppm（これがここの水路と同じ位か　ややきれいな状態です）程度になった水がラグーンと呼ばれる池に流し込まれます。

拓.

このラグーンが　今回の見学ポイントでした。これは面積4000㎡　容積は4000㎥ほどの池で　最深部は深さ4.5mほどです。ここに水車4基（2馬力1.5Kw／h）　風車2基　及び5.5Kw／hのエアレーター（浄化槽などで水に空気を送りこむもの）10基　7.5Kw／hのものが1基用いられています。1日のうちまず6～7時間かくはんが行なわれ　残る5～6時間はかくはんを止めて沈澱　上澄みを放流　これを通常2サイクル行なうということでした。要するに水をかきまわし　空気を送り込むというだけのことなのですが　放流する水はBODが5～10ppmと何と十分の一の濃度に浄化され　窒素も九割方除去されているとのことです。現在の江戸川広域下水処理場の処理水がBOD値20ppm　窒素　リンはそのままということに比べると　ものすごい事実ではないでしょうか。消費電力は特に出力の大きいエアレーターが多く食うので　センサーで調整し　水中の酸素濃度が高い時は運転を自動的にひかえるようにして　省エネがはかられています。1日の処理水は800トン　電気代は　1Kwあたり15円　月に4～50万円程度だそうで

す。さて　レクチャーの間にすやすや眠ってしまった慧君を起して　いよいよ現地見学。どこに処理場があるのかと思っていたら　何と目と鼻の先でした。しょうしゃな北欧風のスモーク工場の同じ棟に　旧来の処理場があります。すぐ裏の2mほどの土手がラグーンでした。スクリーンにかけられている原水はどんよりと濁り　肉片や脂肪らしきものが浮いています。原水が旧処理場に入り　そこからラグーンに入るわけです。私たちの見学のために水車等を止めておいてくださったとのことで　思いの他かわいい水車（図参照）が4基　大きくて人目につく風車が2基浮いていました。水はやや緑っぽく　寒い季節の水路の水に似ていました。

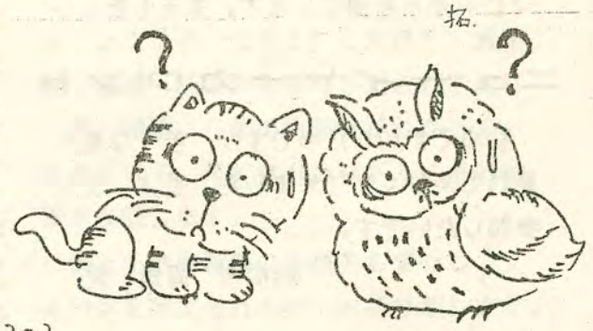
さあ　いよいよ運転開始。「じゃスイッチを入れますよ。」と小島さんが言われると　すぐさま勢いよく水車が回りはじめました。プロペラの先がわずか3～4cmほどしか水に触れておらず　ちょうど蒸しかごのように穴がいっぱいあいた羽根はちょっと頼りない感じだったのですが　まあ　みごとな水しぶき。水をかき回すというより　噴水を上げている感じです。5分もすると純白だったしぶきが活性汚泥特有の赤茶色にかわってきました。1m位下にたまっていた水もかき上げられてきたわけです。次はエアレーター。池の中央部からごーっというひびきとともにものすごい赤茶色の泡がわき出してきました。静まりかえっていた水面は　あっという間に泡立ち　わき立つふっとうしたお鍋のようになり　水車4基は1m近くの噴水をまき上げ続けています。

臭いはほとんどゼロと言えそうです。かなり鼻のきく私でも　一生けんめい力ギわけてようやくわかる程度でした。水音は相当うるさく　ラグーンの中では大きめの声で話さなくてはなりませんでした。でも池から出ると　土手のためもあるのですが　水音はほとんど耳につかなくなってしまいました。食品工場の構内にこういう処理施設があるということは　教えてもらわなければわからなかったと思います。

ラグーンで処理された水は更に養魚池または砂ろ過のトレンチに通され　3次処理をすませてから排水されています。養魚池は底泥処理やくいの補修のため干上げられていましたが　ただ掘って土止めをしただけの簡単なものでした。トレンチの方は芝生の下に埋設された土管で出てくる水はそのまま飲めそうでした。

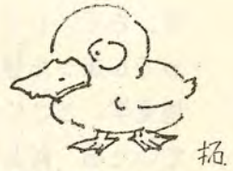
これはいける　友の会でもやれる……見学を終えた時に強く感じました。小柄で内気そうな小島係長に終始親切な説明をしていただきながら　心はいつの日かカワセミが戻ってきた水路の夢を見ていました。宇井先生　小島さん　ありがとうございました。

拓.



きえずり

自然保護に目覚めた日 …… 金子厚子



拓

そんなもの数人でやればすぐに終ってしまうさ　と思ったのが大まちがい！雑草の陰に釣糸あり…と　お！道のまん中にも　え？溝の中まで釣糸！つりいと！ツリイト！！！

次第にエキサイトしてきて嘗めるように捜し廻る私に「何やってんの？」不思議そうな釣のおじさん　おばさん。「御苦労さんだね」「そんなに有るなんて私達も気付かなかったよ。やっぱり気持の悪いもんだねェ」「ちょっと　その新品の釣針くれんかね」　拾った釣糸が沢山入ったビニール袋を見て様々な声が返ってくる。みんな悪気があって棄てる訳ではないんですね。ただ知らないだけ。鳥さん達がどんなに苦しめられているか。私だって知らなかった。鳥見を始めて１年と３ヶ月　探鳥会の度に自然の中でいい風に吹かれて　だんだん増えていく「知っている鳥」を数えて満足だった。でも　それに浸っているだけじゃいけなかったんですね。

友人の平林輝美さんに誘われて　初めて「釣糸から野鳥を守る会」に参加させて頂きました。聞けば荒井さんお一人から始まったというこの会。会員の方々の自然や野鳥に対する限りない愛情をたっぷり感じながら　全国的に快晴で暖かだった今日一日　有意義に過すことが出来ました。どうもありがとうございました。

また参加させて下さい。

初日の出とスズガモの帰還を見る会

野鳥と自然と人の　出合いとふれあいの場－すばらしい行徳野鳥観察舎で新年を迎え　また旧い友人との再会を果しおしること豚汁で身も心もあたたまりこの１年を楽しく充実した気分でおくれそうです。行事の企画者とリーダーの人々に心から感謝致します。来年も新しい友人といっしょに　ぜひ来てみたい。

[redacted] 西城戸　司

１９８６年１月１日　ボクはめでたく１５０種類になりました。おいしいおしるこ　ありがとうございました。

日の出が見れなかったのが残念！

[redacted] 福井　亘

ニューイヤーカウント

初めて参加したのですが　色々な鳥が見れて楽しくすごせました。是非　また参加したいです。

[redacted] 両角　愛

初めてでもあり　楽しみにもしていたニューイヤーカウント（１月５日）の前日はひどい雨模様　しかし心配していた天気も当日は昼時に少しの間雪まじりの強風に見舞われた以外は終始晴天に恵まれた絶好の探鳥日和となりました。そして今まで見知らぬ存在であった数多くの鳥達にも会えることができました。私はいろいろ教えてもらいながら３７種の鳥を観察することができました。しかし後で鳥の数合わせをした時の結果では５０種もいたそうで改めてＢｉｒｄ－Ｗａｔｃｈｅｒとしての力量の差を知らされることになりました。また帰宅してからは鳥達が群れる　この様な自然環境がいつまでも保全されればよいがと　いつになく自然破壊が進行していく現実についても考えさせられた１日でもありました。これからも鳥好きの先輩の皆様よろしく御指導お願いします。

[redacted] 小林　正規

コーフンがさめやらず …… 有川政子

新浜の探鳥会は　３度目の参加。３回目ともなると　ビクビクしながらはなくなりますが。相変らず　ビギナーであることに変りはなく　リーダーについて歩かなくてはと　前の方を歩いたおかげで今度もまた　キジを見ることが出来

第１回目のおどろきを新たにしました。

何といってもはじめての時は　タイサギやアオサギなどの大型の鳥を見て　自然の状態でこんなに沢山の　きれいな鳥が　しかも都心からそう遠くない場所にいるとはと　信じがたい思いで　家に帰りついてからも　コーフンがさめずにおりました。その後　少しでも鳥がいそうな所を歩く時は注意して見る様になりはじめて見る鳥に出合った時はことにうれしく　家に帰ると早速図鑑をのぞくのですが分らないことが多く（動きが早く良く見られず）残念な思いをしております。その点　水鳥の多い新浜はビギナーにとって楽しい場所　今まで冬ばかりでしたから　今度は季節を違えて参加したいと思います。またよろしく教えて下さいます様　毎回の親切な御指導　ありがとうございました。

kei

危険な高圧線 …… 谷　佳子

すずがも通信有難度う御座居ます。毎回楽しみにしております。

蓮尾さんのスズガモ群団通行止？その後を読ませていただき　鳥の為自然の為よかったと思います。会の皆様の御苦労感謝致します。さて　仁部富之助さんの野の鳥の生態（４）を読んでおりました（ｐ１７６～１８１）にかけて　高圧線　電線　鉄線の危険性が記されており

早い時期よりその危険性がわかっていたはずです。特に電力会社さんにその対策を希望します。

東さん始め皆様の活躍をお願いし　又よい年を迎えられる様　お祈り致します。

行事案内

誰でも自由に参加できます。参加費無料。

☆定例新浜探鳥会（毎月第２日曜日）

２月９日　３月９日　４月１３日

集合；東西線行徳駅前　午前１０時

解散；行徳野鳥観察舎　午後３時頃

担当；東　良一　田久保　晴孝

持物；昼食　飲物　バス代（大人　１９０円　子供１００円）

この冬は珍鳥オオハシシギが蓮田（ハスダ）を餌場にしているようです。この蓮田で冬鳥の姿が観察できるのも今年が最後かもしれません。防寒の仕度をしっかりとしておいでください。

☆定例園内観察会（毎月第１　３日曜日）

２月２日　１６日　３月２日　１６日

集合；行徳野鳥観察舎前　午後１時半

解散；　〃　〃　午後４時頃

担当；観察舎　蓮尾　協賛　友の会

サクサクと枯草（カレクサ）を踏（フ）みながら園内を一周します。ノスリやチュウヒが頭上を舞うかもしれません。歩きやすい服装　はきものでおいでください。

☆夕暮観察会（第４日曜日）

２月２３日　３月２３日

集合；行徳野鳥観察舎　午後４時

解散；　〃　〃　午後５時半頃

担当；観察舎　蓮尾

明け方と夕暮れ時は一日のうちでも鳥の動きが目に見えて活発な時間帯。

日が暮れると寒くなります。身仕度をしっかりとして来てください。

☆丸浜バードリバーを調べよう

３月２１日（金；春分の日）

集合；行徳野鳥観察舎　午後１時

解散；　〃　〃　午後５時頃

講師；東邦大学　風呂田利夫先生

あんなどぶ川に生き物なんているのかしら？本当に死の川なんだろうか？

風呂田先生に指導していただいて　底の泥を採集し　ふるいで泥をこして　生物の調査をします。どぶさらいのようなスタイルでお出かけください。長ぐつ　タオル　ビニール手袋用意のこと。

編集後記

10周年記念号の編集に追われ、2月号がすっかり遅れてしまいました。記念号の方は発行こそ遅れましたが内容はとても豊富、お楽しみに……。（春）

巨大（900ha）な埋立て計画が発表されそうです（市川2期）。計画をかえていくような運動を盛り上げていきたいものです。（田久保）

招

すずがも通信　No 36　　1986年２月１日発行

[redacted]　行徳野鳥観察舎友の会発行　年会費１０００円

発行人	東　良一〒[redacted]
事務局	鈴木裕子方
編集人	田久保晴孝
	新妻途夫〒
行徳野鳥観察舎	[redacted]